京交山岳部報

No. 402　　'86　4月号

〔第１５７９回例会〕 **安芸国の名峰めぐり**

牛　頭　山△６７２．５m　(R)

日　　時　**4月12日(土)～13日(日)**　11日　19時みぶ出発予定

コ　ー　ス　主な山　○大土山△800m(乃美1号)　○△629.4m(可部5号)

○呉娑々宇山△682m(海田市6号)

○阿生山△586.4m(広島10号)

担 当 者　本局　三橋　勉(TEL 736)

備　　考　マイカーで行きますので希望者は担当者まで申し出て下さい。

〔第１５８０回例会〕

駒ヶ岳(寺山)780.1m　(T)

日　　時　**4月13日(日)**　早朝出発予定

コ　ー　ス　京都ー途中ー朽木ー木地山…駒ヶ岳

担 当 者　本局　大槻雅弘(TEL 722)

備　　考　百里岳の北方尾根で、ヤブ山です。　1/5万図　熊川

〔第１５８１回例会〕 **江越美国境**

三　国　岳　(T)

日　　時　**4月25日(日)**　早朝出発予定

コ　ー　ス　京都ー木ノ本ー北国街道ー羽梨ー林道…三国岳

担 当 者　烏丸　大倉寛治郎(TEL 889)

備　　考　マイカーのため参加者は事前に申込みの事。

〔第１５８２回例会〕 **府県境シリーズ(61ー11)**

八　ヶ　峰　(R)

日　　時　**4月27日(日)**　みぶ　7時半集合

コ　ー　ス　京都ー周山街道ー安掛ー田歌ー知井坂…八ヶ峰(時間により五波峠へも)

担 当 者　高速　岡田茂久(TEL 2ー3282)

備　　考　府県境シリーズ今年度は東の方の府県境シリーズを行きます。

今月の集会

（インドア　テント生活　　岡本担当）

4月10日（木）　下鴨寮

企画運営委員会

4月21日（月）　厚生会館　4F

安全登山とは

岡田茂久

辞書を見ると〝安全〟とは「安らかで危険のないこと」とある。しかし実際問題としては人間の何等かの行動のなかで、まったく危険性のないというものは存在しない。それは街の散策や海浜での水泳、又、登山においても同様である。

ところが人々の意識の中に〝登山は危ないスポーツである〟という概念があるかぎり、街の散策での歩道と同じような感覚で歩ける山道での転倒でも、登山は危ないということになる。山では登山をしているという認識が必要で、街の散策と比べ登山での危険性（安全度）は、山というだけで人々のみる尺度は異なってくるのである。（この尺度の差が登山における危険性の授受といわれるものであろうか。）

登山は本当に危険なスポーツなのであろうか。街においても交通ルールを守って散策すれば安全なように、山においても登山における基本的な注意事項を守って歩けばまず安全であるといえる。しかし街の散策でも横断歩道のない道路を渡らなければならないことがあるように、登山という行為を完成させるためには、この安全な範囲のみを行動していたのでは到達できない。必ず未知の部分である冒険も又必要になってくる。この安全範囲と冒険範囲は一部重なった直列の関係になっている。冒険範囲にあるのが不可抗力ともいえる山そのものの危険性であり、安全と冒険が重なっている部分がその登山者の能力により危険を避け得る範囲といえる。山は危ないといわれるが、遭難事故の多くはこの重なった部分に位置するのである。すなはち山が危ないのでなく登山者が危ないともいえる。

（山の知識・装備・食料・体力等）　（危険予知能力等）

←＝＝＝＝＝＝＝＝　安全の範囲　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝→　　ー登頂（登山）ー

ー登山開始ー　　←＝＝＝＝＝　冒険の範囲　＝＝＝＝＝＝＝→

（天候・落石・積雪雪崩・悪場の通過等）

一般に安全範囲と冒険範囲は同じ登山をしても、登山者個々によって異なるものである。ベテラ

鷲見山岳部副部長“京都府・中国陝西省太白山合同登山”参加への激励カンパのお願い

この度、京都府と京都府山岳連盟において中国陝西省人民政府との友好交流事業として、日中合同で太白山登山が実施されます。

この太白山は、我が国の富士山とほぼ同じの３，３７６メートルの標高をもつ陝西省の最高峰であり、詩人の李白も登ったとも伝えられ、中国近代登山の発祥の地とされています。

今回の登山に至る経過につきましては、多くの日本人関係者の熱意と陝西省人民政府のご尽力そして中国登山協会の特別の計らいと軍事上の重要な位置を占めるところから外国隊としては今まで一切の登山の許可がされなかったところですが、解放軍当局の理解を得て実現されたものであります。

外国人として初めて登頂できる唯一の機会が京都の岳界に与えられ、ぜひとも成功させていかなければならないプロジェクトです。

この重要な目的を持った太白山登山に我が京交山岳部の鷲見 敏一副部長が「京都府・陝西省太白山合同登山京都府実行委員会」の委員として参加することになりました。

このことは、京交山岳部にとっても大変喜ばしいことであり、つきましては、我々山の仲間として太白山登山の成功と、鷲見副部長が隊の任務を全うされることを祈念し、激励カンパをしたいと思いますのでお一人１，０００円のご賛同をよろしくお願いいたします。

京交山岳部長　岡田 茂久

締切日　昭和６１年４月１９日(土)

送付先　高速鉄道本部 設計課建築係　大木 秀実(内線 859)

ンにおいては安全範囲は大きく、冒険範囲は小さい。一方、ビギナーでは安全範囲は小さく、冒険範囲は大きくなるであろう。そしてこの安全範囲のより大きい登山ほど安全登山といえる。

安全範囲を構成するものとしては、山の研究、装備、食糧、体力等であり、安全範囲を冒険範囲に延ばすものとしてトレーニング、読図力等、そしてもう一つ大事なものとして危険の予知能力がある。これは危険を察知し防御体制をとる能力であり、街の散策でいえば雨が降りそうなら傘を用意し、横断歩道で脇見運転の車が突っこんでくるのを察知しよける能力である。山でいえば悪天候になるのを予想し、落石をよけ、足下の状態よりスリップを予想し、防御体制をとることにより事故を未然に防ぐ能力である。遭難や山の事故の折などよく装備が不備であったとか食糧が少なかったとかがその原因としてよく指摘される。しかし実際はそれらを含めたこの防御能力の欠如が原因であることが多い。

このような能力はその場ですぐ発揮できるものではない。山での色々の経験は勿論必要ではあるが、日常の社会生活の中で起こる様々の事柄について、その状況を的確に摑み判断力を養うことにより、山でも通じる危険予知能力が備わってくるであろう。

登山で冒険性のないものは面白くもなく進歩もない。しかし冒険だけでなくこの冒険範囲をカバーするものとして山の知識を吸収し、トレーニングをつみ、装備・食料を充分にそして危険予知能力を養って安全範囲をより大きくした登山、すなはち〝安全登山〟を今後共推進していきたい。

第１５７１回例会

奥伊吹スキーツァー

三　橋　　勉

今年は２月に入ってから寒い日が続いたのでスキーヤーにはうれしい年である。土曜日の夕方、修学院の関本君と共に車を走らせて行くと、大原付近から雪となり行く先が危ぶまれたが、びわ湖大橋を渡り国道８号線に入るとうそのように雪がなくなり、彦根のトラックセンターで夕食とする。

２１号線の醒ケ井の次の信号から２１Km奥に甲津原がある。四谷からぼつぼつ積雪がありスピードダウンして慎重に運転して、9時４５分スキー場の駐車場に到着した。雪が降っていたのでテントを出さず車の中でシュラフをひろげて朝まで寝ることにする。

除雪のブルドーザーの音を夢うつつで聞きながら朝を迎える。車の中でラーメンを作り8時ごろ出発準備をする。２０cm程車に積雪があり、今日は新雪が楽しめそうだ。ゲレンデはもう多勢のスキーヤーがきていてにぎやかであった。

第４リフトのりばまで歩いて第５リフトと乗りついて峠の展望台に到着し、昨日からきていた武田夫妻と合流する。今朝一番でやってくる予定の大槻君らを付近で少し滑って待つ事にする。第５リフトぞいは急斜面であったが、関本君と一緒に滑り降りた。リフト乗場は１５分程待つ事となったがそれでもヤットコサリフトで登ると、まだ大槻君らはきていなかった。無線で連絡し合うこと

になっていたが通じない。いつまで待ってもきりがないので出発する事にする。

ここからあと2本リフトがあるが今日は強風のため運転を中止していた。シールをつけて林道を我々4人だけで登っていく。今までにぎやかであったゲレンデがうそのように上部は静かで落ちつく事ができた。約30分でリフト終点の小屋に到着する。昼食ののち今日はスキーヤーが来ないので小屋にリュックをデポしていよいよブンゲンに向けて出発する。昔の山スキーの道具に位べると非常に便利になり90度カカトの上るうえに「ゲタ」がつきしかも2段に調節できて、効率的な登行ができる。私の締具はチロリアであるが、踏み込み式でゲレンデにも使用可能である。

各人思い思いの道具で出発となる。昨年大槻貞従さんと一度きているので始めて来た時とは余裕があると落ちついていると、いつのまにか皆行ってしまって遅れをとってしまった。

広々とした何の障害物のない大雪原である。風が少しあったが意外と見透しがよくて時々クラストしているかと思うとふきだまりの深い雪になったりする。しかし気温が低いせいか雪質がよくてとても雪が軽い。

前方に大きなピークがありそこへ登ると谷をへだてた向い側の尾根に2つのピークが見えた。その奥の方がめざすブンゲンらしい。そこで少しバックをして谷を下り別の尾根に取りつく。このあたりまで昨年きたような感じであった。関本君はあいかわらず元気で先頭をきってラッセルしてルートをつけてくれるので大変助かった。時々うす日がさしてきて伊吹山から続く北尾根がよく見られた。1昨年やはりスキーで登った虎子岳や国見峠へ尾根が延々と続きスキーにはもってこいの所で何日か縦走してみたいと思った。

冬山スキーツアー入門コースとしては体力のない人でもリフト利用で楽に来られてよいゲレンデである。しかし、山頂付近は広くてガスが出てくるとまよいやすい所であるので注意する必要がある。関本君は早くも頂上に立ってカメラで写している。やがて頂上到着である。虎子岳へ向って広い尾根が続いている。びわ湖もきれいに見え北方には金糞岳もよく見えあの中津尾根がまっ白である。一度あの頂上にも立ちたいものだ。貝月山も向い側によく見えている。

下りもシールをつけたまま登り下りのコースを元の小屋へ戻った。スキーは雪山では行動範囲も広く取れて大変よいものである。スキーヤーでにぎやかなゲレンデをごきげんで滑って行く。やはり整地されたゲレンデは滑りやすい。山の中でも同じように滑る事ができるように早くなりたいと思った。

大槻君たちとはあとから合流できると先に行ったが結局あえなかった。帰ってから聞くと当日、名神高速道が積雪で不通となり大津で引返したという事であった。

〔コースタイム〕

11:00 展望台…11:33～12:05 リフト終点小屋（昼食）…ブンゲン山頂 13:05～13:10…リフト小屋 13:50～14:05…15:00～15:05 駐車場ー18:35 京都

第１５７３回例会

府県境シリーズ（61—9）

剣尾山と深山

横井襄二

こんな山里にも開発の波が押し寄せて来ているのか登り口の剣尾山麓の土畑集落の北斜面にも、１００戸分位の宅地が造成されている。このために登り口が分らず、始めの取り付きは折角進んだが行止りのため、バックする。今来た府道をうろうろしながら登り口を探す。たまたま尋ねた農家の若奥さんが登り口まで車でわざわざ案内してくれたので非常に助かった。登り口は先程の宅地開発された西の奥の方で宅地内の道路を右に左と何回も曲った終点であった。この間他２台の車を無線で呼びやっと１０時にスタートできたがロスタイム４５分、府道沿いに道標は絶対にほしいところだ。宅地の石積の上を少し歩くと、一番最初に取り付きバックした場所が左５０ｍ程の所に川を隔てて下に見える。藪をこいでもすぐの所、今歩いている道が分っておれば苦労せずにこられたのにと期せずして異口同音の声、やっと道も分り勇躍足どりも軽るくと進むが谷筋の細い道で熊笹に今朝の雪を葉一杯乗せて我々を迎へてくれるが腰より下がオーバズボンをはいてないのでトップの津田さんは大変だ。やゝ広い場所があったのでオーバーズボンをはき雪の感触を楽しみながら進む。２５分程で案外明るく伐採した場所に出る。まむしが原という所で湿地帯であるが、湿地帯特有の植物も動物も今は雪の下で冬眠をむさぼっているのか附近一帯は静寂そのものである。

こゝからの登りは杉の３０年生位の植林がしてあるが一部巾２０ｍ、長さ１００ｍ程が伐採してあるので何処でも歩けるし、未だ誰も踏んでいない雪道に足跡をつけるのは何か勿体ないような気もするが快感を愉しんで歩く。こゝを登りきって少し進むと道標があり右に９０°曲る、直進すれば大阪の能勢町の方へ出る。

これからの登りは急坂である。一歩一歩喘えぎながら背の低い灌木の中を登る、途中階段もあり所々ロープが張ってある。雪が高度をます如に深くなり２０cm位はあるが新雪で温度も多少高いせいかスリップもせずアイゼンを必要としない。規則正しいピッチで登っているので急坂も当初よりあまり苦にならない。程なくすると左手東側の展望が開けて雪の峰が見えてくる。こゝから５分程で摂津と京都の境界の古い石の道標に着く。右に行けばよこお山へ行けるが更に直進し、又５分程で剣尾山頂につく、山頂までは全然人に会はなかったが、山頂では大阪方面からの登山者約３０名程に会う。例によって剣尾山登頂万才の後、食事の準備。

山頂は大きな石があり、案外広い。しかし雪のためゆっくり腰をおとしにくいが、各自適当に良い場所を見付ける。雪も止み風も無く展望を楽しみながらラーメン、サンドイッチ、寿しＥＴＣをばくつく。やはり冬の山では暖いラーメンが最高だ。展望は北は若狭の峰、東は愛宕、比叡、南は摂津の山々、西は六甲と３６０度の展望を満喫させてくれる。これだけでも今日の登山の価値は充分だが、今日は３山踏破のため１時間程で剣尾山を後にする。

今来た道を摂津京都の境の道標まで下りこゝで左に折れて尾根を下る。此の辺りは南斜面のため雪も少なく山肌が露出しているところがある。下りはほんの少しで又登りになる。登り、下り、休憩とする如に汗が出たり引いたりするので体温の調整を歩きながら行う。登ること３５分程で突然伐採された場所に着く、こゝがよこお山頂だ。山頂は１５m四方の平なところで、今日２回目の登頂万才を叫ぶ。雪は２０cm位で温度は5°C と暖い。こゝの展望もよく、特に比えい比良がはっきりと遠望できる。又北にはこれから行く３つ目の山、深山が、なだらかな稜線の上におわんをかぶせたようなドームを乗せて雪の山の中に浮んで見える。

３０分ばかり休憩の後、今来た道を少し下ると北東に下りられそうな道があるので進むが途中で行き止り、こゝは岡田部長と三橋さんにルート開拓を任し、９人は元の道を下りる。帰りは荷物も軽るくなり殆んど下りのためあの喘いで登った急坂も辷る如く下る。山頂より２５分程でまむしが原に着く。別のルートで下りた岡田部長と三橋さんは早くもこの場所で待っていた。１５分位で一気に藪の中を下りて来たようだ。朝私達を悩ました雪の熊笹ももう乾いているので足取りも軽く一気に駐車場所につく。休憩もなくすぐに深山へと車を走らせる。２０分程で深山の北側の林道の終点に着く。この辺りは山というより丘陵地帯で牧場もあり、春ともなれば牛も放牧され野の花も咲き鳥も鳴き牧歌的な風景をかもし出してくれそうな所である。牧場の牛の鳴声を背にして北側から深山へと向う。少々疲れも出て来たのか少し足が重い。１０cm程の積雪の中を３０分も登りつめるともう山頂である。こゝで今日３回目の登頂万才を行う。

山頂には小さな社があって直径２０m位のこじんまりした小山が造ってあり聖域の趣があり、地元の信仰も厚いように思はれる。一時自衛隊の基地の候補にものぼったらしいので、こゝの展望も３６０度のパノラマが楽しめる。山頂の南側に気象観測用のドームがあり、終日無人観測を続けているらしい。山自体がゆるい丘のような型で麓は樹木があるが、上の方は雪があってはっきり分らないが、春になれば若草山のようになるのではないかと思はれる。３０分程休憩の後温度も０°Cまで下って来たので下山する。帰りはドームに通じる自動車を下る北側なので吹きだまりには２５cm程の雪があった。最後の雪の感触を楽しみながら駐車場へ、天候にも恵まれ雪景色を堪能しながら３つの府県境の登頂を楽しんだ最高の日であった。

〔コースタイム〕

壬生 7:35 ～洛西営業所 8:15 ー登山口 10:00…まむしが原 10:25…剣尾山急坂取付 10:50…剣尾山頂 11:20…山頂発 12:15…よこお山頂二等△ 12:50…山頂発 13:20…まむしが原 14:05 登山口 14:25 ー登山口発 14:30 ー深山下着 14:50…深山山頂二等△ 15:15…山頂発 15:50…深山下着 16:10…深山下発 16:15 ー湯の花温泉 17:50 ー五条物集女 17:35 ー壬生 18:30

〔参加者〕　岡田、三橋、津田、武田夫妻、竹井夫妻、片山、和田、山村、横井

以上　１１名　　順不同

金糞岳スキーツァー

1,317m

大　槻　貞　従

1986.3.1～2　1泊2日　　滋賀県木ノ本町高山

3／1（土）　くもり、　P.M5：00関本宅出発、P.M8：00高山二双着、テント泊。平井氏の4WLスバルで、途中～びわこ大橋～彦根～高山とたどった。途中、国道8号線米原近くのトラックセンターで夕食をすます。テント夕食の手間をはぶきたい方々には、便利である。二双まで道路は除雪してあり、車3台が駐車できるスペースが幸いあった、そこでテント設営。関本氏御自慢の長テーブルを囲んで一時のミーティングを済ます。明日はどんな天気になるやら楽しみながら就寝。気温は低くて星が沢山出ている。三橋氏は最近星づいていて色々説明してもらえる楽しい一時である。

3／2（日）　くもり、－2°C　A.M5：0起床、積雪1m、スキーコンディションは良い。昨夜タクシーで来た3人連れのパーティも起き出した。登山カードをボックスに入れて出発。2.5Kmの林道はウオーミングアップに丁度良く、体が暖まって来た頃、登山口の追分に到着、7：30。目指す真白い稜線が樹の間越しに見えるようになってきた。スバラシイ眺めである。ここで一本立てる。これから中津尾の急登のジグザグが一時間続いた所で、新林道の横断に出合う。ここから上はブッシュもまばらになり、広々とした尾根が展開しだした。低温のため、粉雪の中軽々とシールがよく利く。連状の頭辺りまで来ると、アルペン的なムードがただよいはじめる。対岸には長い長い花房尾根が真白い一直線の稜線で、目を楽しませてくれる。しかし花房尾は滑降には斜度がゆるすぎ、又最後が急傾斜になっているため、あまり推薦出来ない。中津尾コースは福井県の法恩寺コース、兵庫県の扇の山コースに勝るとも劣らない。スバラシイ、広々としたゆるやかなスキー滑降にちょうどよい斜度が上へ上へと延々と続いている。幸い雲の切れ間から、春の陽光がサンサンと降りそそぎ、関本、平井両氏を先に行かせ、三橋、大槻組はせかず、あわてず、白銀の世界に春の陽光を身一ぱいに受けて、この世のパラダイスを満喫しながら、ゆっくり登っていった。

小朝の頭まで来ると、目指す湖北第二位の高峰金糞岳が姿を現わした。花房尾がぐるりとめぐって来てつながった地点に立っている。視界も良く、全身を現わしている。ただ、日本海の方は薄暗くいつ雪が降り出すか判らない空模様である。大朝の鞍部でザックをデポし、午前中に往復することになった。少々きつかったが、もう一頑張りで登頂。まるい広い頂上、11時半到達。頂上でゆっくりする間もなく、北から冬型の気圧が張り出して来て、雪が降り出した。とじ込められてはかなわじと、急きょ、滑降にかゝった。昨夜タクシーできた大阪の3人連れは、終始先行しており、

早々に目の前をシュプールをえがいて下っていく。実に楽しそうだ。我々も負けじと後を追う。スリル満点の滑降の始まりである。びわ湖、近江平野の広がりの中へ飛び込んでいく感じがすばらしい。すぐ近くに奥伊吹スキー場と、射能山、貝月山がのぞまれ、東方面には、奥美濃の山々が畳々と白い稜線を延々とつないでいる。特に私は、２年前に行った藪こぎの苦しかった海麦粒山のピョコンと突った峰をいつまでもながめていた。三橋氏は、天狗山をしきりになつかしがっていた。
粉雪のため思うようにスキーが廻ってくれる。爽快無比とはこのことだろう。あっという間に鞍部まで下り、追いかけて来る風雪の中、ツエルトを４人でかぶり、熱いコーヒーで疲れを癒し、昼食を手取り早くすました。

下の方でガヤガヤ声がするので見ると、ワカン組のパーティが２組、バテて登頂できないで難渋している様子。やっぱり、スキーで、きてよかったと思う。元々スキーは登山用具の一つであったのだから。　P.M　1時、出発。

大阪の３人連れは、そうとうなれていると見えて、適当な斜面があるとコースをはずれてでも遊んでいる。５０m程下っては又登り返して来る。この体力には脱帽である。

今年は積雪に恵まれ、３～４mもあるなだらかな樹間コースを自分だけのシュプールを、期待と不安の気持ちで滑降して行く時の気分は最高である。疲れてスキーの先が思うように廻らなくなっても、バランスをくずして転倒し、大穴を開けて立ち上る体力を失くしてもそれはそれなりに事故につながらない限り楽しいものである。

帰路は、新林道を下ることにした。だらだら坂でこがなければならないが、途中から旧林道へ下る急斜面が、これ又面白く、新雪を深々と斜滑降の連続である。やっと追分到着。これからあとは旧林道ルンルン・ランランで下っていく。半分はこがねばならないが。往復１５kmとかなりきついコースであり、又、積雪が多い年を選んでいくことを心がけるべき山であると思う。来年も又、行きたい。　　技術力　☆☆　　体力　☆☆☆　　困難　☆

〔コースタイム〕

高山（テント）A.M 6:30発…追分 7:30…新林道横断点 8:30…連状の頭 9:30…小朝の頭 10:30…鞍部 11:00…頂上 11:30…下り…鞍部 12:00 昼食…新林道 14:00…追分 15:00…テント 16:00 ―帰京 19:30

〔参加者〕　関本、　三橋、　大槻貞、　平井　　4名

ニュース

○　テントに鹿が転落し登山者重傷

３月６日、北海道知床半島を縦走中の京都の登山者が、海岸の高さ３０mの崖下で幕営中、崖上から重さ１００キロものエゾシカが転落し鹿は即死、下敷になった登山者は重傷を負い、自衛隊のヘリコプターで救出されました。

地元の人も「鹿が転落死するのも珍しいが、人がその下敷になるなんて聞いたこともない」とビックリ。　……我々も幕営場所には充分注意しよう。……

△597.5m（点名 夫婦岩）の山名について

坂 井 久 光

3月3日伊藤さんを訪れたところ、大阪低山歩渉会々員で一等三角点研究会に昨年入会し、今西さんの1,500山で始めて顔を合はせた慶佐次さんから、「20万分の1図 姫路、5万分の1図但馬竹田、2万5千分の1図矢名瀬にある兵庫県と京都府の境界尾根近くで、遠坂峠の北にある△597.5mは附近の日本山岳誌の山を探して附近へ聞き込みに歩いていて湯槽山と兵庫県側で呼んでいる。夫婦岩との呼称はない。」との手紙を受取った。又京交山岳部宛に三橋さんにも同様の主旨の手紙が送って来た、との話が最近のお互いの行動の話の末に出て来て、「夫婦岩を書いたのは君の責任だから、京都府側の山名を探しに行かう。明日行く。と鳥の立つ様なあわただしさに、勧めはないが、急に云はれてもすぐに返事も出来ず、帰って用事を調整して承知の電話をした。

積雪期の山行は服装や装備が大変なので余り体力に自信のない小生は冬期は無雪帯の九州南部に最近行くようになった。

3月4日7時に太秦で待合せて伊藤さんの愛車で国道九号線をひた走り、観音峠を越えて須知を経て西へ向い懐しい櫃ケ岳登山の思い出や、三和町を通り鹿倉山を望んで福知山を通り夜久野で宝山の手前で左折、小倉へ行き、最心の聞込みにとある家の老人に会って夫婦岩の山名を聞いたが知らないとの返事で、更に山麓深く南へ入った卅の記号のある集落へ車を進め、二人で分れて聞込みに入った。

私が最近入った藤原さんでは見山と云うと聞いて車に帰ると、伊藤さんはコブロと聞いた、と別の家の主人から父がそう云っていて登路はすぐ近くの支尾根にあるとのことで、二つの山名が出て来た。伊藤さんが朝飯を食べている間に奥の古関種一さんに行き尋ねたら「あの山は見山と云っているが、別に小学校の校歌にも小倉富士と唱われている。コブロと云うのは山頂北側の谷奥の地名だ。それで山頂をコブロと云う人がいる。」との返事で、これならどの名が適当なのか帰って伊藤さんに報告した。

伊藤さんも大変喜んで、「それなら小倉富士にしよう」と云はれ、装具のスパッツやオーバーシューズ、オーバーズボンを装着して家の間から杉林を通り、深い雪道を登った。間もなく尾根に出ると日当りのよい所は雪が少し、伐採路の斜面を登り道が谷側へ巻く地点から尾根へ登って一段と深い積雪の雑木林を登った。途中一休みして即席のコーヒーで喉をうるほし、一段の傾斜のきびしい杉林を登った。

一峰がすぐ近くに見え、頂上から登って見ると又、先に一峰があり、近くて遠いピークであった。私の地図を見ると、昭和50年に遠坂峠から登って小倉の東支尾根を下っているのと、52年に富岡山を故宮後さんや三橋さんと登った後、同じく遠坂峠から案内して登った記録があり、なんでこ

の山へ三回も登るはめになろうとは夢にも思へぬ山であった。

登るに従い展望も展け、西に東に残雪の山々が見えて来て汗も流れるようになり、漸く山頂の懐しい半島状の先端へ到着。早速三角点探しが始っていて、伊藤さんが見つけた測量標柱で深雪を探り出した。私も手伝ったが仲々この辺に違いない限られた地域だが、コツンと反応がない。私が昼弁当を食べている間も熱心に作業が続き、遂に執念の勝利の時間が到達し、深い雪底から三角点の標石が探り当てられた。2人で万才三称し、小憩後ヤッホーをかけて往路下山。

小倉で小憩後次なる烏帽子山へ伊藤さんは愛車を進めた。伊藤氏との相談の結果、「夫婦岩」は「小倉富士」に決定した。

又往復車窓から眺めた白銀に輝く栗鹿山の姿は美しく久しぶりで先輩の伊藤さんとの山行は楽しくかくしゃくたる元気な姿を見て何日迄も元気で登り続けられる事を祈った。又、山名の大切なことをこの度深く胸に刻み込み、二度と不確な山名を会報、その他に書かないように務めることを盟った。

末尾に本年1月中旬に他界された衣川幸三医師（元京都山草会長、野辺の草花・京都府下の山野草等の著者）の故郷が夜久野町の小倉とか、附近に衣川姓の企業の広板が目についた。又、小倉は木地屋の部落の称で全国的に多く、小椋・高倉・大倉等皆同じである。衣川先生と故奥村厚一画伯とは親しく、娘さん同志も友人であった。私の友人の内藤氏も氏と親しかった。

山 癖 雑 記　三十

高　倉　山

伊　藤　潤　治

昭和60年7月14日、当てにしてきた林道は、出水による土砂のため進入不能であった。だが、わが精鋭どもは8時、大長・赤兎（越前勝山）を登るべく、雨の小原を後にして行った。まあ、これ位いの降雨や距離であれば、車に依存せずとも、足にものを言わすのは当然だろう。昔はみんな歩いたもんだ。しかし京交を思うと、やはり文句なしに頼母しいかぎりである。

しばらくして、村人から林道の復旧を知らされた。まだ雨があり、追いかける気は起きなかった。その内に、わが精鋭どもの真実が山の神を感動せしめた、のであろう。雨はやみ、狭間の空が徐々に明るくなりだした。彼等の労に栄光あれ、と喜ばずにはいられなかった。早速、顔なじみになれた西山信さんに登路を尋ねた。川向いであり、直ぐ取付けると思っていると、向う側が植林帯で道はあるが、今は茂っていて登れまいといわれた。けれど道があるのに、藪で登れぬでは、京交の恥であり、これ位いの山の一人歩きができないのも格好がつかず、西山さんから鎌を拝借して、高倉山・973mを登った。

小原から国道157号に出て、滝波川の橋を渡り、左から落ちる谷ぞい道をのぼり、ちょっとした滝の上で左岸に渡った。そう急でない緑一パイの快い谷間で、道はきれいに開いていた。右岸へ移

る辺りで左岸の伐採斜面が顔を出す、右岸も谷の左折する頃には、顕著な伐採ぶりになった。左斜面が東へ向くと、そこまではお影道であったのか、鎌がいよいよ必要になった。

雨上りで、まだ露を含んだ夏草の茂みや灌木群は、進路妨害ではあったが、鎌も腕もゴえていたので痛快であった。尾根近くになって、どこから入った施業だろう。上部から露岩を配した壁状の新しい伐採面である。鎌をしまい杖にすがって稜線に上る。

何と、滝波川側は渓音を響かせ、絶壁は鮮緑の樹林が彩っていた。時雨があったりしてガスさえなければ相当な展望があるだろうに。

頂上部に至ると一帯は、伐採をまぬかれ自然林のまま。遂にその最高地点に立つ、約二時間であった。高倉山を選んだ理由は　仁侠物役者、高倉健の趣きを連想してである。高倉山は△がなく、しかも平頂だから頂上の決定は裁量によるしかない。私はそれを高倉健演のように、きっぱりやってきた。

大箕山と烏帽子山

但馬竹田図の大箕山も福知山図の烏帽子山も共に、図上に山名を載き日本山嶽志記述のように、丹波国氷上郡内にあり、地図は別でも約三キロ余を隔てるだけの両山であり、関わりは深い事であろう。烏帽子山は当部が目下登っている、県境シリーズで思い立ったが、大箕山は青垣町観光のしおり及び1981年秋、紅葉の高源寺、岩屋山△727mを訪ねて以来である。

日本山嶽志によると、大箕山は市原ヨリ二十五町。だが、私の興味は中佐治側にあったので中佐治に行った。やはり予想どおり植林で一部伐出した斜面もあり図星であったのだが、駐車を依頼に行くと、せっかく意気込んだのに、大箕山は市原より登るものらしく、市原へ行くようていねいに送り出されてしまった。駐車の件さえなければ自由に、中佐治側を歩けたのである。

市原の端の「南無妙法蓮華経」碑、二本建つ横から取付き中佐治境の尾根になると、よい作業道が積雪10センチで続くようになる。アンテナと送電柱を経てジグザグ道が終ると平担になった。そこからこれはこれはという積雪60センチ余。△はどうなるだろうの気掛りはあっても豊量の雪景はすばらしい。

登り終ると幸いにも「基準測量、昭和57年6月」小杭があり、やれやれであったが△626.3mとの対面には10分を要した。そばにNHK青垣テレビ放送施設が建ち、その階段で休憩する。まばゆい青空に、岩度山の盛り上った姿が印象的であった。

ちなみにこの山に関したあれこれを、参考までに列記すると。

1. 佐江郷大見山は、南は神楽谷、市原、稲土。北は遠坂谷、中佐治、山垣の四ケ村間にあり、俗に丹波富士という高山なり　頂上より東に京愛宕山、艮に若州松尾山。南は播州山。乾に但馬山見渡す。

2. 夕立大明神。大見山七分にあり、大岩、三ツ岩というを祭る。少し森あり。

3. 天田郡下戸村境にあった足立氏の砦より天正乱に女一人落ちきて、天田郡談村の内法用谷にて討たる。其首を姫荒神と号して祭る。胴は山垣村に引き大見山根に荒神と祭れり。凡十五間の森なり。

4. 夫婦岩、子持岩、地蔵岩、大見山へ登る所にあり。　　以上。

烏帽子山の登路を日本山嶽志は、遠坂村ヨリ一里二町と紹介しているが、私の好みは最寄りでなるべくささやかな里があってほしいのだから、下戸がよい事になる。それに烏帽子山が京都境とあっては、郷土愛やお国びいきが加わって福知山が正面玄関である。

その郷土愛やお国びいきのついでに、この烏帽子山と同線上で、但馬竹田図の山△597.7m、これもやはり郷土愛記録であり、何れ同行者が報告する筈だからその郷土愛お国びいきだけを簡単に触れておく。

それは夜久野町と青垣町界の△で、当部はこれを点名のまま夫婦岩で扱っていた。ところがこの丹波・但馬山地をホームグランドの方より湯舟山の山名をお知らせいただいた。私は好都合にも未登であったからこの山名情報に呼応し、夜久野町小倉に入り登頂したが、ここでは、コブロ、見山（みやま）小倉富士の名があった。それで私はコブロを選ぶ事にした。気に入った理由はコブロを小風呂に作れば、湯舟山に一脚相通ずるからこれで情報提供へのご報謝になる。との思いからである。

福知山から青垣道にかかって間もなく、俚称丹波富士の大糞山の仁王立ちに仰へられた。なるほど大見山とうなづける容姿で、美濃の濃麦粒山を仏佛させるほどの名峰である。それに比べて目指す烏帽子山は「丹波志、氷上郡之部」に、「東に当る天田郡下戸村境の烏帽子山の頂きは、当村足立氏の遠見場所で、天正年中は赤井悪右衛直政の持城であった。上ノ平長三十五間計り、横三・四間宛の平なり。中に二ケ所横に堀切りあり、水の手なし、北の下戸ンの谷に泉あり、山垣表なり二十五町あり、二十町計り尾根続きに西に少々段あり字馬かくしという。烏帽子山の頂より京愛宕山南は氷上郡の村里、戌亥は天田郡の村里、若狭国松尾など見ゆ」とある割には目立たぬ存在である。

地元の小牧、下戸の里では、もっと有名にしたいと願って、由緒を記した碑を建て登山の利便に努めておられ、私たちの訪問は、こんな雪深い折にと喜ばれた。

登山コースは、「　雪　イトド　花　イヨヨ近し　柳宗悦　」であって、輪かん歩きをたっぷりたのしめた。山頂では樹間の桑鹿山、いぶし銀のプラミット伏見山と三岳山が圧巻であった。

帰途は親不知△605mに見送られた。ここには以下の如く山名があるという。「市寺では市寺山、室では室山。榎原では滝山又は榎原山とも称し統一的な名称がなく、国土地理院図には親不知と記されている。江戸時代には、東部は室村の持山の外、正明寺、笹尾、厚木村、南岡、堀村の六ケ村の入会山となり、西部の榎原山と呼ばれる地域は近隣各村の入会山で山論の多い所であった。なお昔の記録にある千載山は室山をさすものといわれている（福知山市域の地名より）」

ちなみに親不知は氷上郡徳尾、鴨坂の呼称である。

大文字山

四歳になったばかりの孫が、こだまさんのいる山へ行きたい、といってやってきた。その孫と銀閣寺道を13時に歩きだす。晴れた日曜日の日盛りだが、古都保存協力税に反対して銀閣寺が門を閉ざし、門前町は人影まばらで古都らしき雰囲気があった。

静寂境の筈の如意ケ岳道に入ると、若い二人、中高年夫妻組、そして賑やかな子沢山の家族づれだから驚いた。この道は若かった戦前に早朝登山会で登っているが、この盛況は隔世の感である。

孫は顔立ちがよくて色白なので女子と思われて、かわいい言葉をかけて下さる方が多い。今日も出合う人たちに度々間違えていただいた。私はうれしかったが孫は見向きもしない。ヤッホーを連呼しているかと思うと、足をとめ落葉と会話にふけったり、小鳥の声に姿を求めて空を仰いだり、後戻りで石を拾うなどあれこれ興味つきない道すがらである。

こういう道草喰いの孫に〝もう少しですよ〟〝頑張りなさいよ〟と励ましていただけたので、大文字の肩にはさっさと上った。市街に向けて盛んにコールしていた孫は、いつもならおやつというのに僕はやくこだまさんに会いたいなー、といじらしい。どこにいるのか探そうよ、と大文字斜面から△に向う。尾根は雪でべたべた、つるつる道、孫の靴と手袋はすぐ汚れたが盛んに丸めて雪合戦をしようなどと雪がうれしくてたまらないのである。

△466 *m* で弁当のあと、蝶のようなアジサイの乾花をお母さんのお土産にして、鹿ケ谷道へこだまを求めて下る。孫の叫びにかすかな反響があり、孫の無邪気な願望は達成したのである。私としてはほぼ半世紀ぶり、それよりも孫の初大文字、楼門の滝行なので、何だか記録しておく気になった。

八ツ尾山

孫が唐突に〝へび喰べてみたい〟といってきた。物怖じせぬのは好もしいが、見境いなく蝮でもつかみかねないと思うと、ちょっと困り者だ。蛇が喰べたいとは誰に似たのか、あきれた変り種である。

今度はバスでなくて車で行きたいとねだるので、丹波の八ツ尾山を登る事にした。この山には大文字はないがそれに代る寺院があって、大文字山と同標高だが、△が二等という条件の揃ったのが味噌である。国道九号線を千代川で左折し青野、松熊を経て、ぽかぽか青天の大内の里に入り、行過ぎて尋ねて戻り、また尋ねて右に自然石造りの常夜燈。左は軒に半鐘を下げた消防器具庫で左折して、やっと「右寺みち、左山みち」碑についた。

寺院は薬音寺といい、住職宅は登り口にあり駐車をお願いして登りだす。きれいに清掃された幅3 *m* 余の参道を東行して、尾根に上り北行すると、右に展望が開けた左手石垣上に、薬音寺本坊があり、その先の森に薬師堂、行者堂、鐘楼が並んでいた。

孫は付近の竹林を指して〝あの竹、伐って〟という。つまり竹を割って、カグヤ姫を連れ出して帰りたい、と本気で思っているのである。こんな天真爛漫を友にして歩いている私は、実に伸びやかで、失ったものが続々戻ってくるような安らぎに包まれて、まさにふわふわと浄土の感じである。

本堂背後の急坂は新しい伐採帯で、砥石屑が散乱して孫は登り難くそうであったが、砥石片と毬（いが）をお母さんのお土産に拾う、相変らずの親孝行に努めていた。

園部、亀岡町界稜に上ると、伐採分だけの愛宕山から老ノ坂付近までの展望があってよかった。それからの道は雑林の内を縫うが、僅かに残雪を留め、しっとりとしたいい小径だった。△は点名大内の二等で466 *m*（園部）。標は解体済み、一次基準点測量は昭和60年7月。別称に砥石山、

御陵山がある。八ツ尾山は低山だが清楚な楽音寺を擁し、静かな山志向や一人歩きには、打ってつけであると推奨したい。参考までに楽音寺の由緒（本坊前掲文）を付記しておく。

元天台であったが、現在は修験宗寺院である。寺伝によると宝亀年間光仁天皇の開創。白河、後白河帝の中興と伝え、明治九年お祭礼の三帝の尊牌を京都泉涌寺に奉納したとの記録がある。天正年間、明智光秀の兵火により７０余有の堂舎焼失後、寛永年間、亀山城主菅沼定芳が復興した、当時の盛観は梵鐘に詳かである。又白河、御白河帝のご病気の際、本尊薬師如来に祈願され、忽ご快復され白河帝、この地を皇居となされたので、大内の里と呼ばれるようになったといわれている。ご遺勅により、山内鶴頂陵に葬ったと伝えられる。

宝永年間建築の唐様造りの現本堂の他、鐘楼、行者堂、庫裡等の建造物がある。

沢山から高雄 — 清滝へ

田　中　定　勝

２月１６日（日）　雪

寺田 7:38　京都駅前バスにて金閣寺下車。

金閣寺バス停ー鏡石ー千束ー坂尻ー上ノ水峠ー沢山頂上ー沢池ー稲尾ー錦レイ峡ー清滝ーバス京都駅ー近鉄ー帰宅 5:30　　久し振りに新雪を踏む。

伏見桃山めぐりとたぬき寺

２月２３日（日）　晴

国鉄城陽駅 9:15　桃山駅下車。

たぬき寺ー乃木神社ー昭憲皇太后御陵ー明治天皇御陵ー桓武天皇御陵ー御香宮神社ー国鉄桃山ー帰宅 2:30　　戦時中以来。

愛　宕　さ　ん

畑　　照　人

２月２４日

冷風吹き寒気烈しい一日となり、山歩きには快適な天気でない。それでも月参りの２回目、今日より行ける日が無いので決行する。２５丁目から積雪が多くなって来た。７合目小屋でアイゼン着

ける。水尾岐れから猛吹雪となる。下界も対向の山の峰々も完全に見えないのだ。前回より少々タイムオーバーで神社着。気温－２°だった。昼食は社務所の前の休み所。焚火が何より有難いね。約３０分、充分に暖気をとり下山にかゝる。こんな悪い天候でも参拝者はあるのだ。日和好し、悪天候も又好し。それぞれの情趣が味えるというものである。流石皆さんアイゼンで足許充分である。社務所の人が云った。『どんな日でも参拝者あり。年中休めません。』と、信仰の力であろうか…。然し何度上ってもしんどい山ではある。完登してのビールの美味いこと。山行出来るのは楽しいものだ。

昭和60年度　山岳部総会報告

昭和６０年度京交山岳部総会は、３月１２日（水）　１８時３０分より下鴨寮で３２名の参加で開催されました。司会を担当されました吉田さんの発声で乾杯の後議事にはいりました。

（１）　昭和６０年度京交山岳部事業報告　　（岡田部長）

昭和６０年度は前年の創立３５周年の後遺症からか、どちらかといえば山岳活動は低調な年であったといえる。

計画した例会は４７回、実施した例会数は４５回で中止した例会は少なかったものの、延べ参加人員は３９０人にとどまった。例会一回あたり平均にすると８人余りの参加者となり結構にぎやかに思えるが、実際は一部の例会にかたより、１人～３人の参加者しかなかった例会が１０回もある。

又、参加者の多かった例会は夏山登山大会八ケ岳の２２人は別にしても、山菜採りやオリエンテーリング等の行事に実施回数３回で延６２人。軽登山ではあるが府県境シリーズには実施回数８回で延べ６２人も参加しており、気負いなく気軽に参加できる山行に人気が集まっている。

それでも府県境シリーズの山は辺境で、あまり登山の対象にはされにくい山が多いため地図が読めねば登れず。又、美濃の山や、飛弾猿ケ馬場山、果無山脈の冷水山等の渋く地味な地図と山勘の山行にも、そこそこの人数が参加しており京交の登山傾向をうかがうことができ、このような山行の回数が増えるのは歓ばしいことである。

６０年度には、山岳部夏山大会を復活させたところ、大変に好評であったところから、６１年度には四季に応じ４回の登山大会を計画している。いずれも幕営山行であるが一部は小屋泊まりも考えているので是非多数の参加を期待している。

一方、毎月の集会も山行に比例して、その参集もまた低調であった。集会参加人員は延１６４人、これは総会と新年会の参加人員数も含んでおり、集会のみを平均すると月１０名程度である。低調

の原因の一つに集会場所として岳連ルームも使用することになったが、そのＰＲ不足も考えられるのではないか。寮に比べルームの場合は局からも近く、時間的な制約がないのでじっくり討議できるメリットがある。６１年度も集会の前にいろいろの勉強会を入れ、山の知識を吸収していきたいと計画している。登山は山での行動だけではない。集会における山行計画の検討と、報告・反省も重要な位置を占めるものである。是非多数の参集を願い楽しい山の話に花を咲かせようではないか。今年も「今日の集会にいきませんか」と声掛け運動をお願いします。

もう一つ残念だったことは、今年も本格的な冬山合宿をもてなかったことである。若い人の奮起を願い、来年度計画の横尾合宿等を冬山まで継続して欲しいものだと思っている。そのためには普段の山行の積みかさねから、トレーニングと正しい技術の修得をし、安全登山を目標に頑張っていきたい。

（２） 昭和６０年度　山岳活動表彰　（大槻副部長）

（Ｌ： リーダーは表彰より除く）

投稿ベスト			例会参加			集会参加		
11回	1位	坂井　久光	24回		岡田　茂久	12回		L岡田　茂久
9回		津田　実	20回	1位	津田　実	〃		L吉田　武
7回	2位	伊藤　潤治	〃		L三橋　勉	11回		L三橋　勉
7回		田中　定勝	18回		L鷲見　敏一	9回		L大槻　雅弘
5回		大槻　貞従	〃		L吉田　武	〃		L鷲見　敏一
5回		L大倉寛治郎	16回		L大槻　雅弘	8回	1位	古市　昌造
4回		L田中　忠久	14回	2位	方山　宗子	7回	2位	和田　良一
〃		L岡田　茂久	13回		和田　良一	〃		大木　秀実
〃		L大槻　雅弘	12回		古市　昌造	〃		方山　宗子
3回		古市　昌造	11回		L大倉寛治郎	6回		大槻　貞従
〃		畑　照人	10回	3位	大槻　貞従	〃		L大倉寛治郎
〃		L鷲見　敏一	〃		大木　秀実	〃		津田　実
〃		L吉田　武	9回		井戸　澄夫	〃		奥村　弘信
〃		L三橋　勉	〃		原田加津子			
			〃		村　宗松			
			8回		奥村　弘信			
			7回		出海　洋三			
			〃		渡辺　智生			
			6回		横井　襲二			
			〃		山元　誠一			
			〃		L武田喜久郎			

（３） 昭和６０年度会計決算・昭和６１年度会計予算について （川原）

担当より提案があり、全会一致で了承されました。

（４） 規約改正 （岡田部長）

「若い部員に企画運営に参加してもらいたい」という今回改正の主旨の説明と提案があり、了承されました。 （別紙参照）

（５） 昭和６１、６２年度 山岳部役員改選

改正された規約により、昭和６１～６２年度役員選出の提案が岡本（義）氏より提案があり了承されました。支部委員については欠席支部が多いので各支部で後日選出するという事で了承されました。

〔本部役員〕

部　長	岡田
副部長	鷲見・大槻
渉　外	鷲見
会　計	川原
部　報	井戸・井上・原田・（補助　三橋）
備　品	山元・山口・（補助　古市・和田）
事務局	大木・広瀬・（補助　三橋）

〔リーダー〕 岡田・鷲見・大槻・武田・田中・三橋・吉田・大倉・岡本

〔企画運営委員〕 岡田・鷲見・大槻・武田・田中・三橋・吉田・大倉・岡本・広瀬光・川原・井戸・大木・山元・

〔支部委員〕

	（実行委員）	（会計委員）		（実行委員）	（会計委員）
本　局	（立　花）	（　楠　）	梅　津	（吉　田）	（吉　田）
高　速	（出海、篠田）	（出　海）	錦　林	（田　中）	（田　中）
横大路	（牧　野）	（牧　野）	烏　丸	（台　川）	（片　岡）
九　条	（古　市）	（角　田）	洛　西	（武　田）	（武　田）
五　条	（松　井）	（松　井）	西賀茂	（横　田）	（横　田）
醍　醐	（北　川）	（北　川）	O　B	（津　田）	（津　田）
			市役所	（山　崎）	

〔山岳連盟役員〕　理　　事　　鷲見（常任）・大倉
評 議 員　　井戸
国体委員　　吉田　　＊　鷲見（常任国体委員）
遭難救助隊員　　吉田・大倉・岡本
自然保護委員　　近藤・坂井・武田

（６）　昭和６１年度　年間計画について　（鷲見副部長）

「いつでもだれでもたのしく行ける山」というメインテーマの年間計画が提案され、了承されました。その中で集会に集まる人が少ないので人集めの事を考えてインドアのテーマを魅力のある物にしてほしいとの意見が出されました。　（詳細は別紙参照）

以上議案討議のあと部長、副部長より挨拶があり総会を終了しました。　　（記録　大木）

〔出席者〕

（０　Ｂ）　山村、横井、辻、田中定、村、津田、奥村、畑、渡辺、坂井
（本　局）　立花、鷲見、楠、原田、山元、方山、関本、井戸、大木、川原、大槻、三橋
（高　速）　岡田　　（五　条）　（欠席）　　（醍　醐）　（欠席）
（横大路）　岡本　　（梅　津）　吉田、徳田　　（錦　林）　田中
（九　条）　上島、古市、大槻、和田　　（烏　丸）　大倉　　（洛　西）　（欠席）
（西賀茂）　（欠席）　　（市役所）　（欠席）

京都市交通局山岳部規約改正

（現　　行）	（改　　正）
第１章第２条　（目　的） 山岳部は、部員の親睦と登高精神の普及を図り、登山の実践研究を行うことを目的とする。	第１章第２条　（目　的） 山岳部は、部員相互の親睦及び安全登山の普及と登高精神の向上を図るため、登山の実践と研究を行うことを目的とする。
第３章第８条　（役　員） 山岳部に次の役員を置く。 部長１名、副部長２名、 企画運営リーダー若干名 委員若干名	第３章第８条　（役　員） 山岳部に次の役員を置く。 部長１名、副部長２名 企画運営委員若干名 リーダー若干名 本部委員若干名、支部委員若干名

第３章第１０条　（企画運営リーダー会）

企画運営リーダー会は、部長が推薦した者をもって構成し、執行機関として山岳活動の推進母体となりその任務に当たる。

第３章第１０条　（企画運営委員）

企画運営委員は部長が推薦し、企画運営委員会を構成、執行機関として山岳部活動の推進母体となりその任務に当たる。

第３章第１１条　（委　員）

委員は、実行委員及び会計委員とし各支部に２名以上置く。

2. 実行委員は本部、支部間の連絡及び山岳部活動の実行にあたる。会計委員は、各支部の会計を取扱う。

第３章第１１条　（リーダー）

リーダーは山岳部の目的を遂行する為の実践的指導にあたる。

2. リーダーは日本山岳協会公認の指導員有資格者及びこれに準じ相当の技術、経験を有し部長が推薦した者とする。

第３章第１２条　（本部会計委員、備品委員、、渉外委員、部報委員）

実行委員のうち委員の互選により本部会計委員、備品委員、部報委員、渉外委員を決定する。

2. 本部会計委員は、山岳部の会計を取扱う。備品委員は、山岳部の備品の保管及び貸出しを行う。部報委員は、部に関する諸記録のほか毎月の部報編集、発行を行う。渉外委員は、京都府山岳連盟のほか友好山岳団体との渉外にあたる。

第３専第１２条　（本部委員及び支部委員）

本部に事務局委員、本部会計委員備品委員、部報委員及び渉外委員を置く。

2. 支部に実行委員及び会計委員を置く。

3. 事務局委員は山岳部の庶務を取扱う。本部会計委員は、山岳部の会計を取扱う。備品委員は、山岳部備品の購入、管理と保守整備及び貸出しを行う。部報委員は、毎月の部報の編集と発行及び発送を行い、友好山岳団体から寄贈の会報等の整理を行う。渉外委員は京都府山岳連盟理事及び評議員がこれにあたる。

4. 実行委員は、支部にあって本部との連絡及び支部山岳活動の掌握をする。会計委員は、部費徴収等を含め各支部の会計を取扱う。

第３章第１３条　（役員の選任及び任期） 部長、副部長及び第１２条に定める委員は、年度末の部員総会において委員の互選により決定し、その任期は二年とする。たゞし再任及び兼任は妨げない。	第３章第１３条　（役員の選任及び任期） 部長、副部長及び第１２条に定める委員は、総会において出席者の互選により決定する。 2. 第１０条及び第１１条に定める役員は、総会で承認を得て決定する。 3. 役員は任期を二年とする。たゞし再任及び兼任は妨げない。
第５章第１９条　（会議の種類） …前文省略…企画運営リーダー会とする。	第５章第１９条　（会議の種類） …前文省略…企画運営委員会とする。
第５章第２２条　（企画運営リーダー会） 企画運営リーダー会は、集会に先がけて毎月一回開催し、例会計画その他山岳活動の推進のための立案、企画、運営にあたる。たゞし必要に応じて臨時に開くことができる。	第５章第２２条　（企画運営委員会） 企画運営委員会は月一回以上開催し、山岳部活動推進のため、企画立案、運営に当たる。

＊　山岳部規約改正に伴い山岳部行動要項の一部を改正する。

Ⅳ　企画運営リーダー会 （総　則） 2. ……全文省略……	Ⅳ　リーダー会 （総　則） 2. ……前文省略……練磨向上に努め安全登山を目標とし、いやしくも他人に……以下省略……
（企画運営リーダー会）	（リーダー会） ＊本文中の企画運営リーダー会をリーダー会に読み変える。

単位円

	昭和６０年度京交山岳部会計決算			
	収　　入	金　額	支　　出	金　額
一般会計	1　部費	425,500	1　備品消耗品費	1,280
	ＯＢ　104,000		2　助　成　金	40,750
	本局　136,500		3　集　会　費	12,600
	西賀茂　3,000		4　総　会　費	20,000
	梅津　21,000		5　部　報　代	245,000
	五条　9,000		6　通　信　費	44,750
	高野　13,000		7　遭対資金積立金	42,000
	醍醐　6,000		8　岳連会費	9,500
	横大路　15,000		9　事　務　費	1,500
	錦林　6,000		10　４０周年記念積立金	150,000
	九条　30,000		11　雑　費	8,720
	烏丸　21,000		12　次年度繰越金	21,035
	洛西　6,000			
	高速　42,000			
	市役所　13,000			
	2　厚生会助成金等	60,000		
	3　雑　収　入	107,359		
	広　告　料	50,000		
	雑　収　入	57,359		
	4　前年度繰越金	4,276		
	合　　計	597,135	合　　計	597,135
40周年記念積立金会計	1　前年度繰越金	80,000	1　次年度繰越金	230,000
	2　一般会計繰入金	150,000		
	合　　計	230,000	合　　計	230,000
遭難対策資金積立金会計	1　前年度繰越金	1,147,484	1　次年度繰越金	1,252,384
	2　利　息	62,900		
	3　一般会計繰入金	42,000		
	合　　計	1,252,384	合　　計	1,252,384

単位円

	昭和61年度京交山岳部会計予算			
	収　　入	金　額	支　　出	金　額
一般会計	1　部　費 3000×140	420,000	1　備品消耗品費	50,000
			2　助　成　金	50,000
	2　厚生会助成金	60,000	3　集　会　費	20,000
	3　雑　収　入	50,000	4　総　会　費	20,000
	広　告　料	50,000		
	雑　収　入		5　部　報　代	300,000
	4　前年度繰越金	21,035	6　通　信　費	50,000
			7　遭対資金積立金	42,000
			8　岳連会費	9,500
			9　事　務　費	4,000
			10　雑　　費	5,535
	合　　計	551,035	合　　計	551,035
40周年記念積立金会計	1　前年度繰越金	230,000	1　次年度繰越金	230,000
	合　　計	230,000	合　　計	230,000
遭難対策資金積立金会計	1　前年度繰越金	1,252,384	1　次年度繰越金	1,376,384
	2　利　息	82,000		
	3　一般会計繰入金	42,000		
	合　　計	1,376,384	合　　計	1,376,384

昭和61年度　京交山岳部年間計画

メインテーマ（いつでもだれでもたのしくいける山）

項目 月	大会山行 担当	山行		行事 担当	イントアテーマ 担当	備考
4		三国岳 （27日 大倉）	八ガ峰 27日		テント生活 岡本	20日 岳連関係 縦走競技会
5	春山大会 白山（3，4，5日） 吉田	鳥見山～貝ガ平山 （20日） 局ガ岳（25日）	頭巾山 11日	山菜取り大会 演習林周辺 （17，18日） 鷲見	読図 吉田	24，25日 国体予選会
6		虎子山（7日大倉） 多田ケ岳 （8日大槻）	経ケ岳 15日	オリエンテイリング （1日） 岡田	山の花 武田	
7		貝月山（13日）	府県境シリーズ	星を観る会 （22日） 三橋	星座 三橋	26，27日 ミニ国体
8	夏山大会 横尾合宿（2，3，4日） （槍、前穂、奥穂、常念） 三橋	由良川源流 完全遡行 （23，24日鷲見）			岩登り用具 大倉	
9		鈴鹿藤原岳（7日） 大峰奥駈け （13，14，15日岡田）	三国岳 (618) 28日	お月見登山 （10日）	装備の使用法 岡田	
10		土蔵山（5日） 小野村割岳	三国岳 (775) 12日		救急法 （テーピング） （9日）鷲見	19日 登攀競技会 11～17日 山岳国体
11	秋山集中登山大会 御岳（2，3日） 岡田	三十三間山（16日） 花房～小津権現 （23，24日）	久多三国 (959) 30日		天気図 田中	9日 踏査競技会
12		大御影山（7日）	三国岳 (508) 14日	納山会 踏査競技大会 （21日）	冬山の生活 について 大槻	
1		二上山（初登山） （4日） 奥伊吹（10日）		新年会 （8日）		
2	冬山大会 比良（7，8日） 武田	奥マキノ スキーツアー			山スキー 広瀬	
3		位山（8日）	明神岳 (527) ケ岳 (524) 29日	総会 （10日）		

例　会　報　告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1571	奥伊吹 スキーツアー	2月15日 ～16日	雪後時々晴	(大槻雅弘)	関本　俊雄 三橋　勉 武田喜久郎 武田　雅子	担当者が都合で早朝発の予定であったが、名神不通との事で参加されず、11時にシールをつけて上部2つのリフトの横を登って行った。　別稿報告
1572	岩岳スキー	2月17日 ～19日	曇時々晴	吉田　武	大倉寛治郎 岡本　義弘 ほか	久しぶりのゲレンデスキーは間の日なので充分に滑ってこられた。
1573	府県境 シリーズ 剣尾山 ほか	2月23日	晴	岡田　茂久	津田、横井 和田、三橋 武田夫妻 竹井夫妻 山村、方山	予告の三国岳は61年秋にシリーズで行く事にしたので変更し雪のある剣尾山からホンヨコへ縦走してきた。帰りに岡田、三橋はホンヨコから国境の標識の方向に戻らずに真すぐ尾根を15分くらいでマムシガ原手前の沢橋を渡る地点に降りた。 別稿報告
1574	(変更) 比良山	2月25日		大倉寛治郎	吉田　武 鷲見　敏一	比良ロープウエイ終点近くで冬山のトレーニングを行う。吹雪の中での行動で、本番さながらの感じをつかんだ。

他山岳会の会報について（受贈分）

2月号　青嶺（山の会）

3月号　近畿山行、　木雞（好山好会）、　趣味の登山、　京都山岳、　比良山岳、　歩渉譜（大阪低山歩渉会）、　京都山友、　わっぱ46号

4月号　北山クラブ、　近畿山行、　木雞（好山好会）

'85　下半期行事報告　　新宮山彦グループ

雑　　報

86　太白山、京都府、西陝省合同登山隊遠征隊に、京交山岳部から　鷲見副部長が参加する事になりました。

昭和61年4月26日に大阪空港を出発し、北京を経由、西安から太白山へ、登頂は5月1日（予定）　5月7日に帰国の日程であります。

この度の遠征にあたり、部員各位のご支援、ご協力（遠征記念Tシャツ　1,500円）の程よろしくお願い致します。

退部　横大路　福田延行、中村恭子

日山協の山岳保険について

昭和61年度の山岳保険の申し込みを受付けますので、本年も多数加入されるようお薦めします。

申し込み先　設計課　大木（852）まで

手続締切	共済開始日　～　終　期	1名当りの掛金
3月20日	61年4月1日～62年4月1日	7,920円
4月20日	61年5月1日～62年4月1日	7,260円
5月20日	61年6月1日～62年4月1日	6,600円
6月20日	61年7月1日～62年4月1日	5,940円
7月20日	61年8月1日～62年4月1日	5,280円

毎月の申し込み締切日は事務手続上　15日にさせていただきます。

部費受領

（85年度分）　横大路　大西、福田

（86年度分）　OB　山村、畑、奥村、田中（定）、横井、村、辻、渡辺（明子）、津田、王丘、中村（雅）

烏丸　台川、片岡、大倉

ニュース

○　日本山岳会京都支部設立される

日本山岳会は明治38年に設立された全国的な組織の山岳会。3月15日、その京都支部が斎藤博生氏（新河端病院長）を支部長に、今西錦司氏（京大名誉教授）を顧問として、全国で21番目の支部として独立発足しました。

京交山岳部では現在8名が日本山岳会員で、今回新たに京都支部に所属しました。

部員

昭和61年4月1日現在

137名

OB部員

近藤　薫
森下　村重
伊藤　潤治
中村　維源
牧　定夫
田中　定勝
山村　敏郎
畑　照人
王壬　そと
石田　和男
山下　周道
坂井　久光
奥村　弘信
河村　清
北林　修一
松岡伊太郎
南口　雪男
塩野昭三郎
津田　実
笈田　昭
上原　昭二
横井　襲二
上田　隆
谷尾嘉津子
渡辺　朋子
村　宗松
辻　久雄
今井勇一郎

本局

三浦　貞義
渡辺　智生
長谷川雅也
宮川　勇
山田　富男
足立　公弘
田中　明
木下　嘉造
平野　裕
前田　文男
関本　俊雄
山元　誠一
大切　照男
大熊　周子
方山　宗子
大槻　雅弘
佐々木敏雄
佐伯　康介
三橋　勉
沢井　佳三
川原　傳治
原田加津子
樋口由紀子
上島　弘子
藪田　民栄

鷲見　敏一
立花　雅彦
加地　卓男
楠　とし子
若山　裕孝
松浦　伸吾
広瀬光太郎
鎌田　利雄
上村　次男
竹田　勉
大木　秀実
岡本　孝
大杉　雅晴
猪飼　康夫
柳田　晃
井上　一夫

高速

岡田　茂久
出海　洋三
石田　幸次
河合　秀晃
大沢　泰
田村　忠司
坂　雅彦
篠田　勝美
今井　武夫
中島　孝生
矢野　聡
滝　裕
宮川　康博
伊達　寿一

西賀茂

飯原　京二
横田　義一

梅津

蛭子野俊雄
吉田　武
徳田　真三
入江健治郎
広瀬　烈

五条

松井　郁夫
世古口了以
田中　繁行
盛田　雅樹
歌川　孝
高塚　暉夫
平田　嘉輝

市役所

原　勝治
中山　忠之
山崎　文夫
木原　滋
荒田又之助
荒川　幸雄
河野　勝

醍醐

岡本　勇
北川　晃

横大路

大西　純一
進藤　義治
牧野　健
中村富美夫
岡本　義弘

錦林

田中　忠久
生田　敏雄
徳野　治
竹村　芳広

洛西

武田喜久郎
竹井　章

九条

和田　良一
村野　忠雄
古市　昌造
清水　明
大槻　貞従
木水　善美
上島　和彦
角田　敏昭
森塚　良郎
井戸　澄夫
山口　雅直

烏丸

坂田　利春
台川　敦美
大倉寛治郎
片岡　秀明
石田　弘
井上　豊
伊地知文男
森本　清一
加藤　満生

帆　布・濾　布
テント・シート
雨　合　羽
木村工業有限会社
京都市中京区ミブ車庫前
TEL　801－5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL　321－0251

愛されるスポーツ店
京菱運動具店
本　店　下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店　南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店　伏見区伯耆町西友ストアー4F
TEL (623) 0824
山科店　山科区音羽野田町1番
西友ストアー山科店
TEL (592) 9770 内線 228

営業時間　**一年中、山用品だけのプロショップ**
午前10～午後1時と午後3時～午後8時
(午後1時～3時は閉店させて頂きます)
<定休日>　火・水曜日
山・アウトドア　プロショップ
ログケビン
LOG CABIN
京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
(四条河原町・阪急河原町より徒歩約4分)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
あらゆる地図のご用命は
株式会社
小林地図専門店
600　京都市下京区烏丸通六条下ル
TEL 075(351)6598(代)
地下鉄：烏丸五条　6番出口南50m
市バス：烏丸六条下車

昭和61年4月1日

京都市中京区壬生坊城町48
京都市交通局内
京交山岳部

お　知　ら　せ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町24
ダイヤ運動用品株式会社

HORIIKE KYOTO
まかせて下さい…ネ
山と乃谷ー

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は　ゼヒ　御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグ ホリイケ
河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL　222－0363

御婚礼・御引越

専門
ぎおん菊水運送株式会社
山科配車センター
京都市山科区西野山階町　12－12
TEL (075)581－3101
本　社
東山区大和大路四条下ル　541－2345
夷川営業所
中京区室町二条上ル　256－3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西　島　輝　雄
左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771－3442

京都 山とスキーの店 あるぷ
京都市中京区新町三条上ル
075－255－0288

この用具の事ならコニシが一番です！
御来店ありがとうございます
山とスキー　レジャー　スポーツ　ショップ
そして海のコニシ
中・二条通河原町西　TEL 231－1202